

巻頭言

エア・アンド・スペース・パワー研究をお手に取って頂き、誠に有難うございます。

航空研究センターは、「日本唯一無二のエアパワー・シンクタンク」として設立され、今年10周年を迎えました。そして、この「エア・アンド・スペース・パワー研究第12号」は10周年記念号となります。

この10年の間で、航空自衛隊を取り巻く環境は大きく変化しました。米中の大国間競争やロシアによるウクライナ侵攻によって、軍事大国間による武力紛争のリスクがかつてない程高まっており、これに対応するため2022年12月の「戦略3文書」では、反撃能力の保持を含め、防衛力の抜本的な強化が示されました。航空自衛隊の役割も大きく変化しています。反撃能力を適切に運用するためには、ウェポンやプラットフォームのみならず、目標を正確に捉えるターゲッティング能力の構築や、その情報を正確かつ迅速に伝える指揮統制能力のアップデートが求められますが、これらはエア・パワーの本領ともいえる領域です。さらには、航空自衛隊は近代戦において「戦闘領域」と認識されるようになった宇宙における作戦能力の中核を担うことが期待され、近い将来「航空宇宙自衛隊」に改編されます。

このような激動の時代においては、継続した知的活動により、各種施策を適切に推進していくことが強く求められます。まさしく、航空研究センターはエアパワー・シンクタンクの本領を発揮しなければならない時期にあるのです。

そして、この10年の節目に、航空研究センターはその活動を見直し、より対外発信を強化することとしました。英語名称をより親しみやすいJAS I (JASDF Air & Space Studies Institute) とし、「JAS I レポート」など部外向けのレポートの発行を充実させるとともに、海外シンクタンクとの連携も深めています。その中でも、「エア・アンド・スペース・パワー研究」には、部外の研究者などからも引用される質の高い論文を掲載することで、日本国内における空と宇宙に関する防衛力に関する研究の活性化に貢献するとともに、航空自衛隊研究者のさらなる能力向上を図ることとしました。

このような取り組みの結果、今回の掲載論文は何れも部内外の関心が高く、

日本の防衛力向上に知的に寄与するものになったと自負しております。JAXA 山川理事長の航空宇宙防衛力シンポジウムにおける基調講演は、宇宙領域の重要性と、これまでJAXAなど日本の宇宙関係者が築いてきた世界に誇る技術をいかに宇宙の安全確保につなげていくかという航空自衛隊の新たな課題に示唆を与えるものです。「中国による宇宙の平和利用の状況」（千綿）は、宇宙安全保障において急激に存在感を増している中国の宇宙活動を多くの中国語文献をもとに分析しました。「戦略的思考とは何か」（樺島）は、航空自衛官が個人的レベルで戦略的思考を働かせていく場合にはどのようなプロセスが必要かを考察した意欲作です。「低高度空域と航空作戦との関連性」（渡邊）は、近年の武力紛争での活用が注目されているドローンの航空作戦における活用についての議論を整理したものです。そして、「中台関係の「非対称性」と相互の戦略」（大磯）は、「大」国である中国と対峙する台湾が、「小」国としての利点を活かして巧みに対抗している状況を両者の非対称性に注目し中台それぞれの文献等から考察したものです。

このように、航空研究センターではこの10年の間にさまざまな専門性を持つ研究者が部内外で関心の高い分野においてタイムリーに論考を発表できる体制が整いつつあると評価しております。今後とも航空自衛隊の知的精強性向上の中核を担う、航空自衛隊幹部学校航空研究センターの活動に注目していただきたいと思えます。

最後に、今号にご玉稿をお寄せくださった執筆者をはじめ、様々にご協力いただいた方々に心より感謝申し上げますとともに、今後とも航空研究センターの諸活動にご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

『エア・アンド・スペース・パワー研究』前編集委員長
航空開発実験集団司令部装備開発官
空将補 菅井 裕之